

平成29年度大学コンソーシアムとちぎ「大学を超えた共同研究支援事業」報告書

|                  |   |
|------------------|---|
| 所属機関名            | 作新学院大学  |
| 団体・グループ等名        | 日本カウンセラー教育研究会   |
| 研究代表者名<br>(所属部署) | 田所撰寿<br>(人間文化学部 教授)   |
| 研究連携担当者名及び連絡先    | 毎澤典子 (NPO法人 栃木県カウンセリング協会 副理事長)<br>橋本幸晴 (NPO法人 キャリアカウンセリング協会 特別講師)<br>本城慎二 (東京都立荻窪高等学校 教諭)<br>大吉智子 (日光市教育委員会教育相談室 教育相談員) |
| 研究連携校名           |   |
| 関連自治体・経済団体等名     | NPO法人 栃木県カウンセリング協会  |
| 研究連携校名           |   |
|                  |   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 研究事業名 | カウンセラー教育におけるグループ体験研修に関する研究<br>—マイクロラボラトリートレーニングの効果の検討—   |
| 2. 実施年度  | 2017年度 (平成29年度)  |
| 3. 研究成果等 | <p><b>【研究の目的】</b><br/>「カウンセラーになるためにどのような訓練を行うことが必要なのか」、これが本研究の目的である。多くの研究では「カウンセリング体験をすること」、「自己の特徴に気づくこと」が必要であると述べられている。これらの最も効果的な方法が「グループ体験」であり、この研修を受けることはカウンセラーとクライアントの両方の体験を経験することができ、カウンセラーとしての態度の獲得につながる。</p> <p>カウンセラー教育におけるグループ体験を、1970年代に日本人に適したグループ体験の方法として確立されたのが、マイクロラボラトリートレーニング(MLT)である。本研究ではMLTの効果についての検討を行った。</p> <p><b>【研究の方法】</b><br/>1. 研究 I<br/>(1)調査対象<br/>TCAのカウンセリング研修講座(基礎コース)の受講生(18期生)35名を対象とした。受講生の職業は医師、教師、看護師、保健師、会社員等であった。<br/>(2)調査時期<br/>2017年8月3日～6日にかけて栃木県内の宿泊施設において、3泊4日の日程で行われたMLTにて量的データを収集した。<br/>(3)調査内容<br/>質問紙調査:「カウンセリングにおける自己効力感尺度」、「セルフモニタリング尺度」、「自己意識・自己内省尺度」、「多次元共感性尺度」、「他者意識尺度」、「自己肯定</p> |

意識尺度」、「カウンセリングスキル評価尺度」の各質問項目に対し、「とてもよく当てはまる」から「全く当てはまらない」までの7件法にて尋ねた質問紙である。

(4)調査の手続き

トレーニング開始前に研究の趣旨について説明し、受講生から研究の同意を得た上で、トレーニング開始前と開始後に質問紙に回答してもらった。

(5)結果と考察

質問紙調査によって得られた結果をTable 1に示す。

Table 1 MLTの前後における各尺度の変化

|                   | 介入前   | 介入後   | t 値    | 危険率   | n  | α 値   |
|-------------------|-------|-------|--------|-------|----|-------|
| セルフモニタリング尺度       | 57.79 | 59.65 | -1.269 | 0.213 | 34 | 0.843 |
| (標準偏差)            | 8.37  | 6.69  |        |       |    |       |
| 多次元共感性尺度          | 20.63 | 20.60 | 0.061  | 0.952 | 35 | 0.845 |
| (標準偏差)            | 3.23  | 2.44  |        |       |    |       |
| 自意識と自己内省尺度        | 18.69 | 18.14 | 0.736  | 0.467 | 35 | 0.911 |
| (標準偏差)            | 4.75  | 4.15  |        |       |    |       |
| 他者意識尺度            | 51.06 | 52.79 | -1.307 | 0.200 | 34 | 0.819 |
| (標準偏差)            | 8.66  | 7.26  |        |       |    |       |
| 自己肯定意識尺度 (自己受容)   | 20.32 | 20.18 | 0.329  | 0.744 | 34 | 0.885 |
| (標準偏差)            | 4.23  | 3.97  |        |       |    |       |
| 自己肯定 (自己実現的態度)    | 34.26 | 34.71 | -0.601 | 0.552 | 34 | 0.896 |
| (標準偏差)            | 6.21  | 5.95  |        |       |    |       |
| 自己肯定 (充実感)        | 37.94 | 37.53 | 0.442  | 0.662 | 34 | 0.911 |
| (標準偏差)            | 8.42  | 7.94  |        |       |    |       |
| 自己肯定 (自己閉鎖性・人間不信) | 24.09 | 25.24 | -1.322 | 0.195 | 34 | 0.898 |
| (標準偏差)            | 7.50  | 8.62  |        |       |    |       |
| 自己肯定 (自己表明・対人積極性) | 30.40 | 29.06 | 1.522  | 0.137 | 35 | 0.895 |
| (標準偏差)            | 7.16  | 7.08  |        |       |    |       |
| 自己肯定 (被評価意識・対人緊張) | 22.94 | 24.34 | -1.445 | 0.157 | 35 | 0.927 |
| (標準偏差)            | 7.69  | 8.96  |        |       |    |       |
| 援助スキル自己効力感尺度      | 51.63 | 51.22 | 0.210  | 0.835 | 32 | 0.967 |
| (標準偏差)            | 15.94 | 15.03 |        |       |    |       |
| セルフマネジメント自己効力感尺度  | 28.82 | 27.91 | 0.506  | 0.616 | 34 | 0.987 |
| (標準偏差)            | 12.04 | 11.78 |        |       |    |       |
| カウンセリング課題自己効力感尺度  | 38.26 | 39.32 | -0.474 | 0.639 | 31 | 0.978 |
| (標準偏差)            | 17.59 | 17.18 |        |       |    |       |

調査の結果、いずれの尺度においてもトレーニング前後における差は認められなかった。この結果の解釈として、第一にトレーニング終了直後にデータを収集しており、宿泊研修という非日常的な体験において、研修内容をカウンセラーとしての訓練に置き換えることが難しかったのではないかと考えられる。第二に、効果測定に使った質問紙が、本研究においてはあまり適していなかったことが考えられる。MLTの目的に沿った質問紙は開発されておらず、今後の検討となる。第三に、トレーニングの前後での量的調査では、研修効果が測りきれなかったことが考えられる。質的な検討が求められる。

2. 研究Ⅱ

|                      |  |
|----------------------|--|
|                      | <p>(1)調査対象<br/>TCAのカウンセリング研修講座（基礎コース）の受講生(19期生)32名を対象とした。受講生の職業は相談員、教師、看護師、保健師、会社員等であった。</p> <p>(2)調査時期<br/>2018年8月2日～5日にかけて栃木県内の宿泊施設において、3泊4日の日程で行われたMLTにて質的データを収集した。</p> <p>(3)調査内容<br/>質問紙調査：MLTの効果についての質問を設定し、自由記述による回答を求めた。[事前]①「MLTに何を期待していますか」②「今、どんな気持ちですか」<br/>[事後]①「3泊4日のMLTを通して、得たものは何かありますか」②「MLTが終わって、どんな感想をお持ちですか。ご自由にお書きください」 [1か月後]①「この1か月で、MLTの体験を通して何か考えたことはありますか」②「これからカウンセリングの学習にどのように臨もうと思えますか」</p> <p>(4)調査の手続き<br/>トレーニング開始前に研究の趣旨について説明し、受講生から研究の同意を得た上で、トレーニング開始前と開始後、および1か月後に質問紙に回答してもらった。</p> <p>(5)結果と考察<br/>研究Ⅱについては現在結果を整理し分析を進めているところである。</p> <p>【研究成果】<br/>＜論文＞<br/>田所撰寿（2018）専門職であるカウンセラーとしてのアイデンティティの構築—カウンセリングの歴史と定義の変遷— 作大論集 8. 49-63.<br/>田所撰寿（2019）臨床実践に求められるカウンセラー教育内容の検討—倫理的意思決定・グループワーク・セルフケア— 作新学院大学臨床心理センター研究紀要 11.（印刷中）.</p> <p>＜学会発表＞<br/>大吉智子・田所撰寿・橋本幸晴（2018）カウンセラー教育におけるグループ体験学習の効果に関する研究—マイクロ・ラボラトリー・トレーニング（MLT）参加者の感想文の質的分析— 日本カウンセリング学会第51回大会発表論文集 71.</p> |
| <p>4. 今後の課題及び発展性</p> | <p>研究Ⅰについては、感想カードのデータも収集しており、研究Ⅱの分析と合わせて、MLTの効果について早期の質的分析が求められるところである。</p> <p>MLTの効果客観的に示すことにより、カウンセラー教育の中で今後さらに活用されていくことが想定される。</p> <p>そこで新たな課題となるのが、「トレーナーの養成」である。現在MLTを行っているトレーナーは数人であり、経験者のトレーニングを受ける、そして見て学ぶという方法に頼られている。今後さらにMLTが広がっていくことを想定するならば、トレーナーを養成する方法を確立することが必須となる。これを行うことでトレーナーの力量によるトレーニング効果の差異がなくなり、カウンセラー教育の方法として確立することになる。</p>  |